Human Rights

人権だより

NO.101

令和７年５月発行

岐阜県環境エネルギー生活部　人権施策推進課　岐阜県人権啓発センター
〒500-8570　岐阜市薮田南2-1-1（県庁2F）
☎058-272-1111（内線3052）　直通058-272-8250

令和７年度 啓発活動重点目標

～人権啓発キャッチコピー～

「誰か」のこと　じゃない。

法務省の人権擁護機関では、令和７年度も、人権問題を誰かの問題ではなく、自分の問題として捉え、人権を尊重することの大切さについて考えていただけるよう、「『誰か』のこと　じゃない。」を啓発活動重点目標に掲げ、各種の人権啓発活動を幅広く展開します。

令和７年度啓発活動強調事項　法務省

（１）女性の人権を守ろう
（２）こどもの人権を守ろう
（３）高齢者の人権を守ろう
（４）障害を理由とする偏見や差別をなくそう
（５）部落差別（同和問題）を解消しよう
（６）アイヌの人々に対する偏見や差別をなくそう
（７）外国人の人権を尊重しよう
（８）感染症に関連する偏見や差別をなくそう
（９）ハンセン病患者・元患者やその家族に対する偏見や差別をなくそう
（10）刑を終えて出所した人やその家族に対する偏見や差別をなくそう
（11）犯罪被害者やその家族の人権に配慮しよう
（12）インターネット上の人権侵害をなくそう
（13）北朝鮮当局による人権侵害問題に対する認識を深めよう
（14）ホームレスに対する偏見や差別をなくそう
（15）性的マイノリティに関する偏見や差別をなくそう
（16）人身取引をなくそう
（17）震災等の災害に起因する偏見や差別をなくそう
（18）ゲノム情報（遺伝情報）に関する偏見や差別をなくそう

※この資料は、法務省委託事業により作成されています。

「第43回全国中学生人権作文コンテスト」岐阜県大会
受賞おめでとうございます

法務省人権擁護局と全国人権擁護委員連合会が主催した「第４３回全国中学生人権作文コンテスト」において、全国６，４５０校の中学校（特別支援学校を含む。）から応募された計７３６，５１３名の作文の中から岐阜市立精華中学校２年　大熊　千尋さんの作文が見事、法務省人権擁護局長賞に輝きました。

本紙では、受賞をお祝いするとともに受賞作品をご紹介します。中学生らしい感性に富み、純粋な感覚で人権問題をとらえた作文をご愛読ください。

法務省
人権擁護局長賞

違いを越えて

岐阜市立精華中学校　２年　大熊　千尋

私の部屋の机の上に、一枚の写真が飾られている。アレックス、ケイティ、リア、ナタリー、そして私の五人が、笑い声が聞こえてきそうなほどの笑顔で写っている。

父の仕事で、私は四才から八才までの四年間をアメリカで過ごした。そこでは私は、「外国人」だった。見た目も、言葉も、何を当たり前だと感じるかも、何もかも私は周りと異なっていた。

学校では先生たちが口々に

「いじめは恥ずかしい行為です。」

「この学校では、差別的な発言や行動は一切許しません。」

と言っていたけれど、ダメだと言われると、それを陰でやる人たちがいることを私は知っている。

私の下手な英語をまねしてからかってくる子がいた。私の細い目を笑って、指で自分の目尻を思いきり横に引っ張りながら近づいてくる子もいた。その場では平気なふりをしたけれど、私は家でたくさん泣いた。

「違う」って、素敵なことなのに、どうして否定されたり拒絶されたりからかわれたりするのだろう。

日本で暮らしている日本人以外の人も、大変な思いをしているだろうなと思う。肌の色や着ている服が違うとじろじろ見られたり、あまり上手ではない日本語で話しかけるといやな顔をされたり、何もしていないのに怖がられたり。

人権とは、全ての人が人間らしく生きる権利。全ての人が幸福を追い求める権利。日本人だろうとアメリカ人だろうとそんなことは関係なく、誰もが持っている権利。それを奪ったり奪われたりすることは絶対に許されないし、自分の権利ばかり主張して人の権利を軽く見ることも、あってはならない。

人種や国籍に関係なく、人は「人」という一種類しかない。たった一種類の私たちが、小さな違いにばかり目を向けて争うのは悲しいことだ。

写真の五人は、みんな違っていた。私は日本人だし、ケイティはまっ白な肌にそばかすがとてもかわいらしいし、リアはアフリカンアメリカンでチョコレート色の肌と黒髪がきれいだし、アレックスの赤っぽいクルクルの髪に私はあこがれたし、ナタリーはお父さんとお母さんが違う国の出身だ。

そんなバラバラの私たちが、違いなんて気にせずいつも一緒に笑っていられたのは、同じ目標に向かってみんなで努力していたからだと思う。

私たちは器械体操を習っていて、同じチームのメンバーだった。一週間に九時間、一緒に練習したし、練習のない日に家でみんなで柔軟体操をしたこともあった。

どうやったらもっと美しく平均台での技ができるか、鉄棒の着地でふらつかないためのコツはないか、床演技の静止ポーズでは指先を内側に向けるべきか外側の方がきれいか。

全員が上達するために話し合ったり教え合ったりする私たちには、言葉の壁も人種の違いもなかった。そこにいたのは、体操が上手になりたくて共に努力する五人の小学生だった。

いろいろな違いのある人たちが、違いが見えなくなるくらい一緒に熱中できる活動があるといい。スポーツでもいいし、アートでもボランティア活動だっていい。地域や県や国が、そのような場を提供してくれたら、「違い」を持った人たちが違いを越えて、「仲間」になっていくだろう。

まずは、私にできる小さなことから始めたい。コンビニで買い物をする時、レジの店員さんが日本人でもそうでなくても目を見てありがとうございます、と笑顔で言う。いろいろな国の人が参加するようなボランティア活動に参加する。小さな一歩だけれど、「外国人」であることの寂しさを私は知っているから、同じつらさを味わう人を一人でも減らしたい。

私の母は、岐阜市国際協会のボランティア通訳に登録している。

「アメリカに住んでいた時、外国人の私にも心を開いて仲良くしてくれた人がいて、とても嬉しかったの。だから今度は日本で私が外国の人を受け入れてあげたい。」

と母は言っていた。私も英語を勉強して、いつか母と一緒に通訳ボランティアをすることを目指している。

違いなんて表面的なもので、人は人という一種類しかないこと。一緒に熱中できることがあれば違いなんて見えなくなること。違いを越えて自分も周りの人も大切にすること。当たり前のようで、でもなかなか実現できないこれらのことがいつか本当に当たり前になるよう、私は私にできることに精一杯取り組んでいきたい。「外国人」という言葉そのものが必要なくなる日が、皆平等に人権を得たと言えるスタートラインなのかもしれない。

令和６年度「ひびきあい活動」の取組

平成１８年度から、県内全ての公立幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校で「ひびきあい活動」に取り組んでいます。この取組は、人権教育における行動力の育成を主たる目的として、人権問題に対する実践的態度の育成を図り、確かな人権感覚を培い、様々な人権課題を解決することを目指しています。

昨年度は、多くの園・学校で幼児児童生徒が主体となり、これまで継続してきた自他を大切にする活動の意義について立ち止まって考え、話し合ったり、様々な人権課題を追究し、仲間や地域の方等と交流したりすることを通して、人権感覚を育成する取組が行われました。

ひびきあい活動キャッチフレーズ

○ 幼稚園	みんな　なかよし
○ 小学校（前期課程）	つなごう　人と人の心と心
○ 中学校（後期課程）	あなたの心を行動に
○ 高等学校	磨こう人権感覚　つくりあげよう共生社会
○ 特別支援学校	心と心で支え合い　笑顔あふれる毎日に

１６８の園・学校を「ひびきあい賞」として表彰！<岐阜県人権教育協議会>

【「ひびきあい賞」表彰校数】

幼　稚　園	１４園
小　学　校	８７校
中　学　校	４３校
高 等 学 校	１７校
特別支援学校	６校
私 立 幼 稚 園	１園

■様々な人権課題の理解や日常生活につながる実践例

○　中学校区３校で連携して様々な人権課題について、発達の段階を踏まえながら、９年間を通して計画的に学習できるよう３か年計画を立てて実践を進めている。

○　昨年度学習したアンコンシャス・バイアス、マイクロアグレッションについて学び直し、理解を深めた。加えて、ジェンダーバイアスを知り、考える活動を通して、普段の生活を見つめ、人権感覚を高めた。

○　外国にルーツをもつ生徒が多いという実態に応じ、国籍に関わらず、互いの存在を認め合うことを目指し、多様な国の文化等を紹介したり、国際理解・共生社会について講師から学んだりすることで、自他の存在を大切にする意識を高めた。

「ひびきあい活動」の優れた取組を継続して行っている１８の園・学校を「人権文化あふれる学校賞」として特別表彰！

「ひびきあい活動」を核とした日常的な人権教育を継続している園・学校を「人権文化あふれる学校賞」として特別に表彰しました。「ひびきあい活動」の取組を継続・発展させることにより、日常の様々な場面で、自分の大切さと共に他の人の大切さを認める態度や行動を自然に表す幼児児童生徒が育まれています。

◆◇◆　特別表彰された園・学校では、次のような取組が行われています。　◇◆◇

○　異年齢交流活動や児童会の取組を充実するなど、多様な場面で他者と関わる活動

○　児童生徒、保護者、地域住民が様々な人権課題について学び合う取組

○　地域の一員として、他者のために行動することの意義に気付くことができるような取組

【「人権文化あふれる学校賞」表彰校】　～今年度も含め通算６回以上、連続３年以上「ひびきあい賞」を受賞した学校～

- 岐阜市立本荘小学校
- 岐阜市立加納西小学校
- 岐阜市立茜部小学校
- 岐阜市立鶉小学校
- 岐阜市立三輪北小学校
- 揖斐川町立谷汲小学校
- 白川町立白川小学校
- 飛騨市立古川小学校
- 下呂市立尾崎小学校
- 岐阜市立岐阜西中学校
- 各務原市立川島中学校
- 揖斐川町立揖斐川中学校
- 多治見市立小泉中学校
- 中津川市立第一中学校
- 高山市立北稜中学校
- 白川村立白川郷学園
- 岐阜県立八百津高等学校
- 岐阜県立東濃特別支援学校

※「人権文化あふれる学校賞」は１回のみの表彰です

岐阜県教育委員会

ちょっといい話を紹介します（54）

日々の生活の中で、ほんの少し相手のことを思ってかけた「言葉」や「行動」に、まわりの空気が温かくなったという経験はありませんか。

また、あなたがつらかったとき、苦しかったときにかけられた「言葉」や「行動」が励ましになった経験はありませんか。

県民のみなさまから身のまわりの心温まる話をたくさん寄せていただきました。

その中から、3作品を紹介します。

小学校

あこがれのお父さん

家族と駅にいた時、目の見えない方が杖をついて歩いていた。その方は店で、「すいません。水ください。ここはお店じゃないのですか？」と話していた。でも周りの人達は誰も足を止めない。その時「店の前ですよ。中までご案内しますね。かたにつかまってください。」と言った人がいた。お父さんだ！お父さんはその方を水の置いてあるところまで案内していた。その方は何度も「ありがとう。」と言っていた。ぼくも、お父さんみたいになりたい。

中学校

目に見えない会話

通学路には、「ちょっといい瞬間」がいつもある。道路を渡ろうとすると、すぐに止まって、優しい顔で私達が渡り終わるのを待ってくれる。だから、感謝の気持ちを込めて、頭を下げてから、道を渡る。

そこには会話はないけれど、目と目が合った時、「お先にどうぞ。」「ありがとうございます。」という聞こえない会話が生まれている。短い間だけれど、心がちょっと温かくなる瞬間。そんな瞬間でいつもあふれている。

高等学校

毎日出会う地域の方

バス停まで歩いていくときに、いつも出会う地域の方がいます。ある日、私は学校を休みました。そして、次の日バス停まで歩いていると、その地域の方が、「体調は大丈夫？」と声をかけて下さいました。きっと、いつも出会うはずの私がいなかったので心配して下さったのだと思います。声をかけて下さった地域の方の優しさ、あたたかさに朝からほっこりしました。

音声コードって？

各ページの右または左下隅に、バーコードのようなものが印刷されています。これは、『音声コード』といいます。

音声コードとは、紙に掲載された情報をデジタルに変える、新しい形の二次元バーコードのことで、縦と横の2方向に情報を記録することができます。この音声コードは、「活字文書読み上げ装置」によって音声で読み上げてくれます。

また、活字文書読み上げ装置で音声コードを読み取らせる場合、音声コードの位置がわかるように、用紙に切り込みを入れてあります。目の不自由な方々にも、当課が発行する啓発資料を活用していただくため、人権だよりは、『音声コード』による情報提供を行っています。

※「活字文書読み上げ装置」は、視覚障がいの方の日常生活用具として、給付（補助）を受けることができます。詳しくは、お住まいの市町村福祉窓口までお問い合わせください。

R70 古紙配合率70%の再生紙を使用しています